

東海連合支部 第131回山登り会 登山報告

日 時： 2020/12/20
行 先： 衣笠山・滝頭山
標 高： 278・258m
登 山 口： 愛知県田原市
累計標高差： 380m
歩行距離： 4.2km (全行動時間 約4.0時間)
参 加 者： (あいうえお順) 奥山(幸)さん、清水さん、茂木

当初6名参加予定であったが、体調や近所の弔事などで、3名での山行となった。奥山さん、清水さんは三河田原駅まで電車で来ることになったので、集合場所を「滝頭公園」に変更した。駅から約30分歩くのでご両人は既にウォームアップ完了で、10時に滝頭公園を出発した(標高40m)。



分岐右へ

公園脇の一般道を10分程北に行くと「衣笠山遊歩道」の案内板の立った登り道が左側に現れる。よく整備された擬木の階段道で始まり、遊歩道と言うのに相応しい適度の登り具合の道となって行く。山茶花のトンネル、落ち葉や花びらの吹き溜まり等を30分くらい楽しみながら歩くと、道標のある交差に出る。

直進の広い方はトレランコースで右に登って行くのが衣笠山頂方向だ、道標を良く見ずに危うくトレランコースに行きかけた(10:40 160m)。右の登山道に入ると岩混じりのやや急な勾配になってくる。無理のない、しかしのんびりでもない微妙なペースで登る。標高差120mを20分で登ると衣笠山山頂に到着する(11:00 279m)。山頂には木の檜の展望台があり、南側(太平洋側)は木立で遮られてしまっているが、北側はしっかり開けている。



衣笠山頂上

手前の三河湾右方向に田原港、そのずっと先には富士山が霞んで見える。今年の富士山は雪を被っていないので灰色が目立たない。富士山の手前の山々を左に辿ると山々の間に白銀の南アルプスが見える、おそらく聖岳と赤石岳だろう。さらに左側の山の間に雪山が見える、御嶽か恵那山かあるいは中央アルプスなのか定かでない。もう一度三河湾に目を戻すと、三河湾の向こう側には蒲郡市と三河大島が、さらに左側の山のくびれから見えるのは岡崎市らしい。展望を楽しんだら展望台を降りて岩の根元で少し早い昼食をとる。この山は付近に山が少ないのと、麓に公園があったりすることから地元で人気の山らしい。今日は何組かのグループに出逢ったが、皆、若い女性(どちらかと言うと)で男に逢ったのは単独の一人だけだった。



富士、南アルプス微かに

45分の昼食休憩の後は次の山、滝頭山だ(11:45)。山頂からは今来た道のほかに2本、西方向と南方向へ道があり、滝頭山は南方向の道となる。そこそこ滑りそうな勾配を数分下ると緩やかになり右から道が合流して、そこからは女性グループが下ってきた。聞けば、山頂から一度西に向かい、「さじき岩」を経由して来て結構楽しかったとの事、事前調査不足が悔やまれた。そこから更に少し下ると行きで別れたトレランコースが左から合流し、道幅がグッと広がって両側は山茶花とシロモジの群生となってくる。一寸行くと途中左側に朽ちかけた東屋があり、侵入防止ロープが張られている。この先一度平らになり、再び少し登り、ピークを過ぎて下りきるとアスファルト舗装の一般道と交差するコルとなる。



滝頭山頂

舗装道路には2台のサイクリング車が登ってきた(仁崎峠 12:08 150m)。舗装道路を横切って今度は擬木の階段を登る、階段が終わり200m位水平移動すると再びやや急な登り坂となる。滝頭山までは標高差約100m、登りきると6畳程の平地となっている。以前は神社でもあったのか数段の石段と壊れたコンクリートの基礎が残っており、傍らの木に「滝頭山」の看板がぶら下がっている(12:30 256m)。

ここは木が伸びて眺望は良くない、記念写真を撮る等して20分程休んでここからは帰路となる。道は左右に分かれている。左側(東方向)の緩い下りを降りる。次のポイントは「恐竜の背」と呼ばれる岩なのだが、案内板に従って行くのだがそれらしい岩に当たらない、そうこうするうちヒトツ葉が密生する岩があり、葉が恐竜の背中のひれとすれば視ようによっては恐竜の背になるのかな、ととりあえず手を打った。

それにしても名前の割にはショボ過ぎると内なる声が不満を訴えるので、後日ネットで調べると10m位の大きさの平べったい岩であることが分かった。どうやら近くを気づかずに通っていたらしい。引き続き急な岩場を下る途中に「前非を悔いて覗きなされ懺悔岩」と書かれた看板の脇道があるので入ってみた。岩は切り立った断崖となっており、お尻がムズムズするので「くわばらくわばら」とばかり逃げ帰る(13:00 160m)。

本道に戻り最後のポイント「滝頭不動」に向けて岩道を下る。降りきった所で道は二手に別れ、辻には1m位の石の観音様が立っていて、傍に「不動滝」と右向きの矢印が出ている。観音様と矢印で少し混乱したが、観音様と不動は別物なので、ここが滝頭不動の場所ではない、「滝頭不動」は方角的に左方向とみて進む。やがて「滝頭不動」と書かれたお堂の脇に出る、小さいが清楚なお寺でこの辺が滝頭公園の奥の部分なのだろう(13:25 80m)。

ドウダンや紅葉の赤、さぎんかのピンクと葉の深緑と言った華やかな道を数分下ると差し渡し100~150m位のほぼ4角形の池のほとりになる。同じ位の池が並んでそれらを巡って何本もの遊歩道が作られている(13:30 60m)。2つの池の脇ぶらぶらと通過すると出発点の滝頭公園駐車場となる。登山はこれで終了となるが、奥山さん、清水さんはここから30分駅までの歩くことになる。ご苦労様・・・。